

# 日本酒で乾杯推進会議 「島根大会」開く

## 神々と日本酒のふるさとを舞台に、第7回目の地方大会

日本酒で乾杯推進会議の島根大会が10月27日の午後、松江市のホテル一畑で開催されました(主催=日本酒造組合中央会/主管=島根県酒造組合/共催=日本酒で乾杯推進会議島根大会実行委員会)。今回のテーマは「神と人との喜譚(さかみずき)~再発見 神々の国しまね 日本酒のふるさとからメッセージ」。



溝口善兵衛島根県知事(左から3人目)ら来賓がそろって鏡開き



石毛直道代表の発声で乾杯

会には、全国各地から約320名が参加して、パネルディスカッションや芸能鑑賞、懇親の宴など、多彩なプログラムを堪能。八百万の神々が集う島根の街に「日本酒で乾杯！」の声が轟き渡った一日をレポートします。



- ◀ パネルディスカッションの様様
- ▲ 伝統芸能の粋『亀尾神能』の鑑賞会





## 神様だって、日本酒で乾杯！320名がつどった神在月の一夜

日本酒業界が平成16年10月から取り組んでいる「日本酒で乾杯運動」は、乾杯という行為を通じて日本酒、日本文化への誇りと愛情を取り戻そうという業界総力のキャンペーン。運動の中核組織となる日本酒で乾杯推進会議では、「日本酒で乾杯」の全国普及を目的に毎年秋に各地域で地方大会を開催しており、今回の島根大会は通算7回目の大会となります。

ほぼ1年がかりで準備を進めてきた島根県酒造組合の関係者によれば、「大会に備えて地元紙などで事前告知を行ってきましたが、地元はもちろん全国から参加申込が相ついで、急遽定員を増やしたほど」とのこと。およそ320名の参加者で埋め尽くされた会場では、第1部「基調講演&パネルディスカッション」(14:30~16:30)、第2部「亀尾神能鑑賞」(16:30~17:15)、第3部懇親の宴「神在月大直会」(17:30~20:00)という3部構成のプログラムが繰り広げられ、参加者からは「島根の10月は神在月。出雲大社に集う日本中の神様も、今夜はきっと無礼講ですよ」という声も。神様だって、日本酒で乾杯！



会場のホテルは、満々と水をたたえた宍道湖を目の前に望む絶好ロケーション



大会の冒頭、日本酒で乾杯推進会議・100人委員会の石毛直道代表(国立民族学博物館名誉教授)が開会挨拶。

「この運動は、日本酒で乾杯し、日本酒を飲むことで、日本の伝統文化を受け継いでいこうという文化運動。古代から酒と深くつながる島根でこの地方大会が開かれるのは非常にうれしい」



満席の会場(第1部の基調講演から)

この夜、出雲大社ではこんな光景が？





## 第1部 ★島根の酒文化、神話と酒などを巡って5氏がパネル討論

第1部では、民俗学者の神崎宣武氏が「頂杯と乾杯」と題して基調講演を行なった後、NPO 法人出雲学研究所理事長であり荒神谷博物館館長の藤岡大拙氏をコーディネーターに、溝口善兵衛氏(島根県知事)、常松秀紀氏(佐香神社宮司)、本間恵美子氏(島根県立八雲立つ風土記の丘所長)、西村隆治氏(日本酒で乾杯推進会議運営委員長)の4人のパネリストが、乾杯運動や島根の酒文化、出雲神話と酒などをテーマにした興味深いやり取りで会場を楽しませました。



楽しいやり取りに参加者も興味深々



### ● なぜ、乾杯は日本酒か？神崎氏が基調講演

神崎氏は基調講演「頂杯と乾杯」の中で、「頂杯は神様にお供えた神聖なお酒を頂戴することで、長い歴史がある。乾杯は明治中期にイギリス海軍の影響で日本に広がったものと考えられるが、日本では乾杯するときも神様のお陰をいただく気持ちで何事かを心に『祈念』する。こうしたことを考えれば、神様に祈るのにビールで乾杯はあり得ない。乾杯するなら、日本酒で乾杯しよう」と訴えました。



**藤岡氏** 「古事記編纂 1300 年の年に、この島根で日本酒で乾杯の地方大会が開かれるのは意義深いこと。日本人が日本らしさを失ってしまっている今、乾杯運動が『日本人よ、もう少し日本を取り戻そう』というねりになってほしいと思う」



**溝口氏** 「島根県には 34 の蔵元があり、それぞれに個性を持っている。日本酒は地域社会の絆を強める酒。乾杯はもちろん、独酌もよし、差しつ差されつもよし」



**常松氏** 「昔この地を集った神様たちは、180 日間酒宴をされた後にお別れになった。その酒の米を作った神田の跡に建てられたのが佐香神社。当社では今も私が中心になってどぶろくを造り、祭りの参詣人に配っている」



**本間氏** 「古事記には、大和に出掛けようとした大国主命を、妻の須世理姫がお酒で引き留める場面がある。このことがなかったら、ミコトは今頃出雲にはおいでにならなかったかも」



**西村氏** 「昨年、日本酒は 16 年ぶりに前年の消費を上回ったが、これが今後も続くことを期待している。日本人の頭はあまりに西洋文明に偏りすぎだ。日本的なもののよさをもっと評価してほしい」





## 第2部★神楽と能の融合「亀尾神能」の迫りに感嘆の声



第2部では、松江市の持田神社に伝わる亀尾神能を鑑賞。神能とは神楽に能楽の要素を加えた伝統芸能で、国指定文化財の「佐陀神能」(ユネスコ無形文化財)と同一系統の亀尾神能は、シテ・ワキ等の役名や大鼓・小鼓の使用などより能楽の色合いが強いとされます。様々な演目がある中で、今回上演された「八重垣」は、面や衣装など特に能楽的なもの。スサノオが酒に酔ったヤマタノオロチを退治するまでの、力強く様式的な舞台を堪能した参加者は「いやあ、面白かった。思わず引き込まれました」と感嘆の声をあげていました。



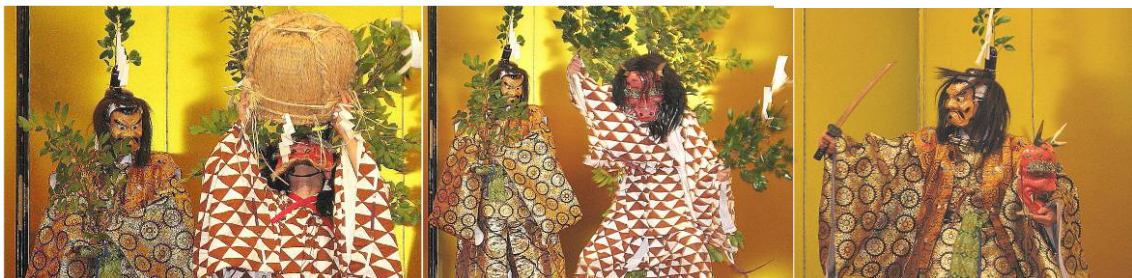
スサノオ命



ヤエガキ姫



◀ ヤマタノオロチ。今まさに「ヤシオリノサケ」を飲まんとするところ。額に描かれた模様は16の眼で、8匹の大蛇を表現する。こんなところにも能楽の影響が現れているとか。



酒を飲み干し(左)、泥酔したヤマタノオロチ(中)は、昏倒して(上の写真)、スサノオ命に討ち取られる(右)。





## 第3部★島根の地酒と料理で懇親の宴。アトラクションも多彩に

午後5時半からスタートした、お待ちかね「神在月大直会」では、日本酒造組合中央会の篠原会長の挨拶、溝口島根県知事の歓迎の言葉に続き、日本酒で乾杯推進会議・100人委員会の石毛代表の発声で「日本酒で乾杯！」(1頁の写真)。

正面のステージで、島根県西部の石見神楽など盛りだくさんのアトラクションが繰り広げられる中、参加者は島根の高級食材で贅を尽く



出雲神話弁当

した出雲神話弁当を肴に島根の地酒を味わ

いながら、歓談のひと時を堪能。最後は、島根県酒造組合の米田則雄会長が「今日は十分に楽しんでいただけたでしょうか。島根県は今後も頑張って日本酒で乾杯運動に取り組んでいきます！」と力強く宣言して、高揚と賑わいに満ちた宴に幕を降ろしました。



米田会長



◀ 中央会の篠原会長は開催に尽力した県組合関係者の労をねぎらった上で、「麴とダシの和食文化の復活が日本酒の復興につながる」と挨拶。



◀ 日本酒で乾杯推進会議の会員でもある溝口知事。「島根は歴史と文化と酒の街。島根での地方大会開催を心から歓迎します」。



▲ 火を噴くヤマタノオロチ！8匹の大蛇が舞台狭しと暴れ回る石見神楽は、亀尾神能とはひと味違う迫力。



◀ 隠岐民謡も。  
▼ 島根県といえば、コレ！安来節と泥鰌すくい、会場は最高潮。



▲ 恵比寿さまも特別参加。



▲ 会場の模様



# 神様と一緒に乾杯、カンパイ、かんぱい！ 日本酒で乾杯推進会議 島根大会 [ 2012.10.27 松江市 ]

